

日本遺産
構成文化財
を訪ねる

東海道 箱根八里 散策地図

日本遺産「箱根八里」

旅人たちの足跡残る悠久の石畳道―箱根八里で辿る遥かな江戸の旅路―



「日本遺産」とは
「日本遺産 (Japan Heritage)」は地域の歴史的魅力や独自の文化を通して我が国の文化・伝統をストーリーを文化庁が「日本遺産」として認定するものである。

「箱根八里」は、江戸時代初期に徳川幕府が整備した東海道の一部で、標高約0mの小田原宿から標高約46mの箱根峠まで、標高約50mの三島宿までの八里約30kmの道です。

★「箱根八里」について

「箱根八里」は、江戸時代初期に徳川幕府が整備した東海道の一部で、標高約0mの小田原宿から標高約46mの箱根峠まで、標高約50mの三島宿までの八里約30kmの道です。この道は、天下の險と歌に唄われたように、東海道の難所とされてきました。箱根八里のうち、小田原宿から箱根関所を通って箱根峠までを東坂と呼び、箱根峠から三島宿までを西坂と呼びました。



「箱根八里」あれこれ

■東海道の成り立ち

天正八年(一五九〇)に江戸に入城した徳川家康は、慶長六年(一六〇二)東海道中山道日光街道甲州街道奥州街道の五つの街道と宿駅を制定。慶長九年(一六〇四)には街道の幅員を五間とし、里を三町と決めて路傍には榎などを植えた里塚を築かせた。また、街道の両側には道幅を特定するために並木を植え、それにより旅人のための木陰を提供した。

東海道の箱根湯本からの道筋は鎌倉時代から使われた中世東海道の尾根筋から合筋へと経路が変更された。元箱根から箱根宿までは中世の経路とほぼ同じで、箱根宿から三島宿までは中世の箱根越えの道の東海側に並行して新しく道が作られた。箱根路、箱根旧街道とも呼ばれる東海道「箱根八里」は、険しい箱根山を江戸防衛の要として、三島側の西坂は関東に侵入する敵を発見しやすい尾根道、小田原側の東坂は外敵を迎撃しやすい谷筋に経路がとられたといわれている。

■小田原宿

小田原が城下町として発展したのは、五世紀末の北条氏の進出後、城は拡張されその守りの固さで上杉謙信や武田信玄をも退けた。天正八年(一五九〇)豊臣秀吉の小田原攻めにより北条氏は小田原城を明け渡す。領地は徳川家康に与えられ、その後西への防衛の要として大久保氏や稲葉氏などの譜代大名が小田原城に入った。

■箱根宿

小田原宿と三島宿の間に箱根宿が設けられたのは元和四年(一六一八)。徳川家康により宿駅伝馬制度が作られてから二十七年後である。箱根越えの道の険しさに難儀した参勤交代の大名たちからの要請によるものともいわれている。

幕府は江戸防衛のため東海道の主要河川に橋を架けながら、酒匂川も延宝二年(一七二四)に徒歩かち渡りとなり旅人は川越人足の肩や笠白川を渡った。小田原宿から次の箱根宿までは六里あまりあり、険しい箱根越えを控えるほとんどの旅人は小田原に泊まった。

■三島宿

三島は伊豆国の宮である三嶋大社の門前町として古くから栄えた。江戸日本橋から数えて十番目の宿場町であり、三嶋大社門前で東海道と下田街道甲州道が交差する交通の要所であった。江戸



時代初期には、幕府の直轄地として伊豆国を管轄する代官所が置かれていた。当時、伝馬・久保、小中島・大島四町あたりが宿場の中心地となっており、この四町が中心となっており、三島宿を運営していた。本陣には、の本陣と呼ばれた徳川幕府の本陣。本陣は、本陣と呼ばれた徳川幕府の本陣。本陣は、本陣と呼ばれた徳川幕府の本陣。本陣は、本陣と呼ばれた徳川幕府の本陣。

箱根八里 小田原―箱根

1 「箱根八里」構成文化財スポット

富士山眺望スポット 資料館・博物館

バス停 ●●●●● 並木

「箱根八里」街道	石畳道	国道
東海道	有料・自動車専用道路	主要地方道・都道府県道

◎ 地図内の絵は全て「東海便覧図略」(名古屋博物館蔵)より
 「東海便覧図略」は、武士で文筆家兼画家の猿蓑庵(高力信儀)が1786年(天明6)に名古屋城下から江戸へ旅した時の記録である。

構成文化財

1 小田原城跡

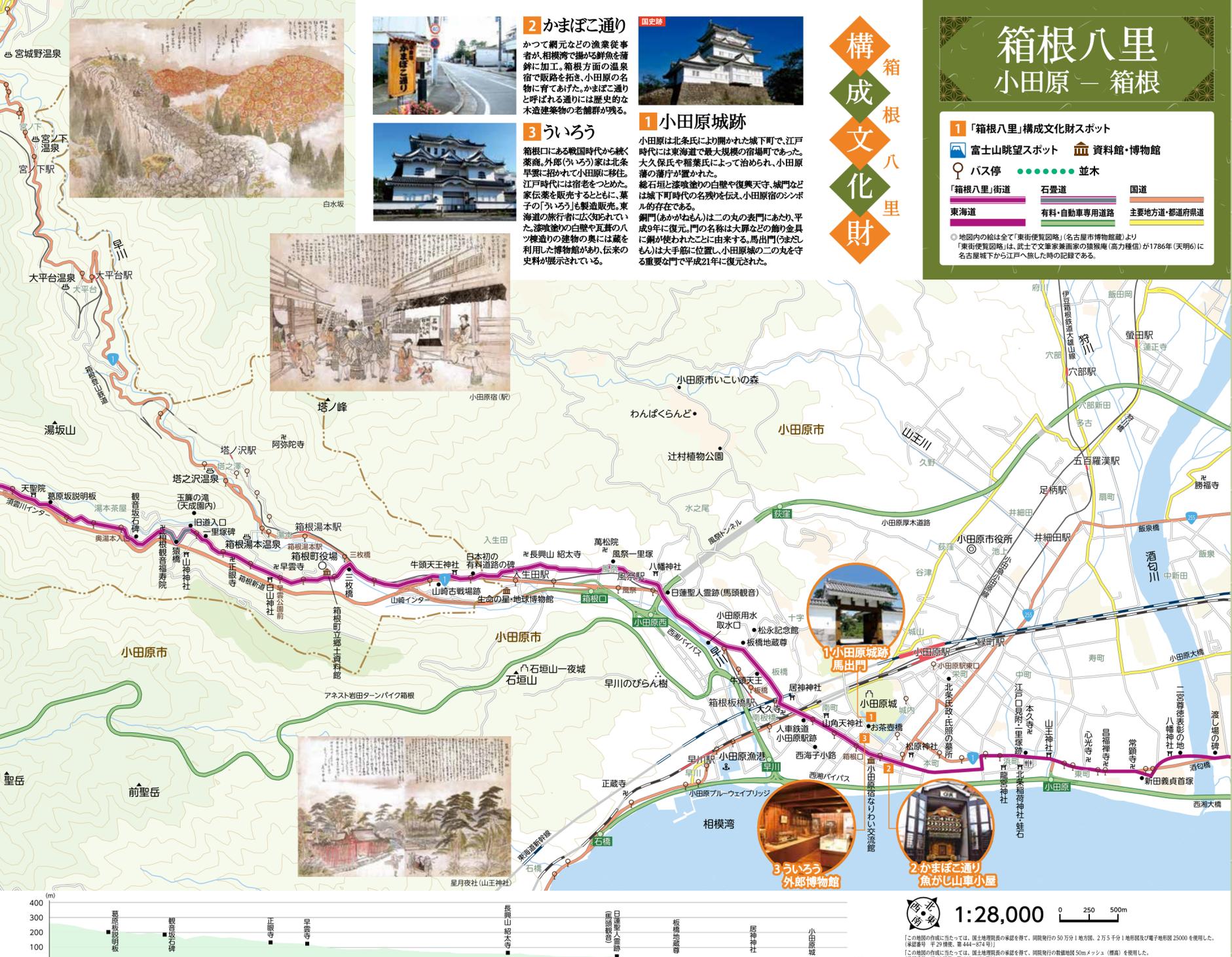
小田原は北条氏により開かれた城下町で、江戸時代には東海道で最大規模の宿場町であった。大久保氏や稲葉氏によって治められ、小田原藩の藩庁が置かれた。総石垣と漆喰塗りの白壁や復興天守、城門などは城下町時代の名残りを伝え、小田原宿のシンボルの存在である。銅門(あかがねもん)は二の丸の表門にあたり、平成9年に復元。門の名称は大扉などの飾り具に銅が使われたこと由来する。馬出門(うまだしもん)は大手筋に位置し、小田原城の二の丸を守る重要な門で平成21年に復元された。

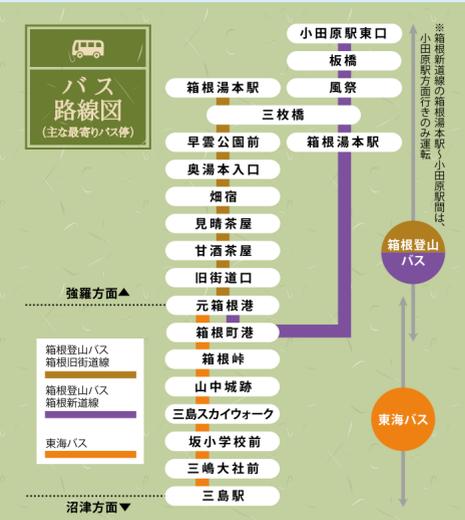
2 かまぼこ通り

かつて網元などの漁業従事者が、相模湾で揚がる鮮魚を蒲鉾に加工。箱根方面の温泉宿で販路を拓き、小田原の名物に育てあげた。かまぼこ通りと呼ばれる通りには歴史的な木造建築物の老舗群が残る。

3 ういろう

箱根にある戦国時代から続く薬商。外郎(ういろう)家は北条早雲に招かれて小田原に移住。江戸時代には宿老をつとめた。家伝薬を販売するとともに、菓子の「ういろう」も製造販売。東海道の旅行者に広く知られていた。漆喰塗りの白壁や瓦葺の八ツ棧造りの建物の裏には蔵を利用した博物館があり、伝来の史料が展示されている。





鉄道・路線バスお得情報 2021.4.1現在

1日フリー 箱根旧街道・1号線きつぷ
小田原駅～箱根町港間の箱根登山バス+小田原駅～小涌谷駅間の箱根登山電車乗り降り自由
*小田原・箱根周辺の観光施設の優待・割引特典付
大人1,780円/子供890円 Tel.0465-35-1201

1日フリー みしまるきつぷ(フリーきつぷ)
三島市内～箱根峠間の路線バス
1日乗り放題
大人1,000円/子供500円 Tel.055-935-6611

2日間または3日間有効 箱根フリーパス
小田原線往復(出発駅～小田原まで)+指定区間内乗り降り自由
(箱根登山電車、箱根登山バス、箱根登山ケーブルカー、箱根ロープウェイ、東海バス他)
*箱根周辺の観光施設の優待・割引特典付
大人4,600円/子供1,000円(2日間の場合) 小田原お客さまセンター
*小田原駅発で、乗り物を乗り継ぐ場合
Tel.044-299-8200

箱根八里 お問い合わせ

箱根八里街道観光推進協議会
〒411-8666 静岡県三島市北田町4番47号
(三島市産業文化部商工観光課内)
TEL.055-983-2656 FAX.055-983-2754
E-mail:shyokou@city.mishima.shizuoka.jp

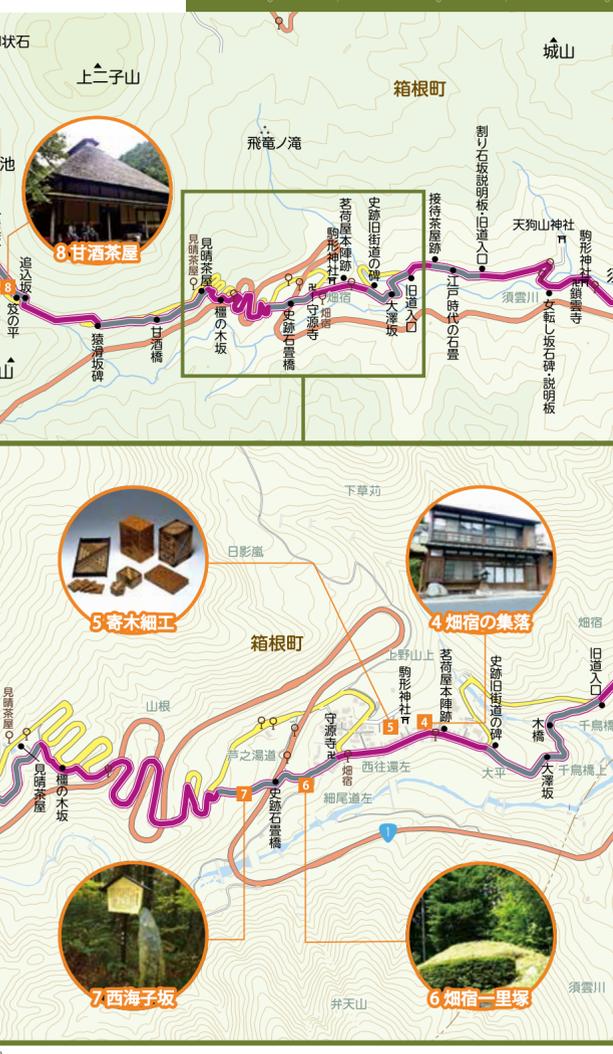
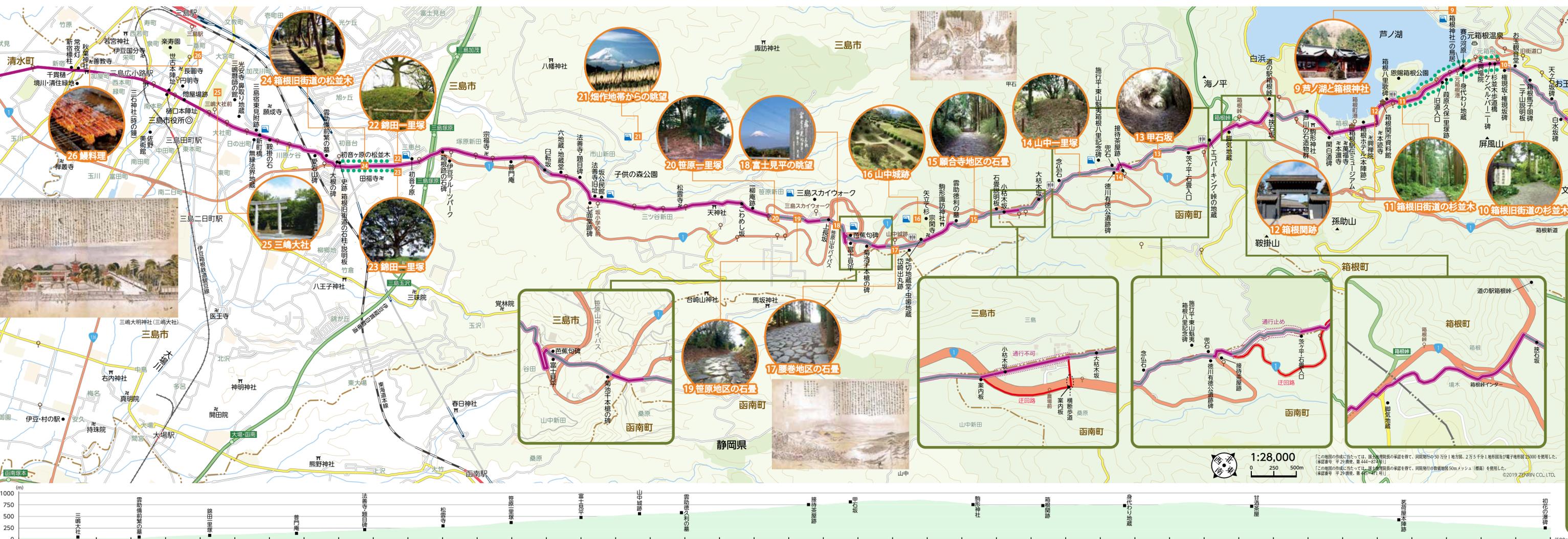
箱根町 企画観光情報課
〒250-0398 神奈川県足柄下郡箱根町湯本256番地
TEL.0460-85-7410 FAX.0460-85-6815
E-mail:web_shyokou@town.hakone.kanagawa.jp

三島市 産業文化部商工観光課
〒411-8666 静岡県三島市北田町4番47号
TEL.055-983-2656 FAX.055-983-2754
E-mail:shyokou@city.mishima.shizuoka.jp

函南町 建設経済部産業振興課
〒419-0192 静岡県田方郡函南町平井717番地の13
TEL.055-979-8173 FAX.055-978-3027
E-mail:sangyo@town.kannami.shizuoka.jp

2021.3発行

- 24 箱根旧街道の松並木**
三島市方面に西坂を下り、三嶋大社へと続く旧街道沿いに残る松並木。約1km続く松並木は現在の東海道では最長。付近には、源頼朝に因む初音ヶ原の地名が残る、富士山の眺望地でもある。
- 25 三嶋大社**
伊豆国一宮として、源頼朝をはじめとした武家の崇敬を集めた。本殿・幣殿・拝殿が国の重要文化財に、境内にあるキモノセウの古木は国の天然記念物に指定されている。宝物館には、国重文に指定された収蔵品が展示されている。
- 26 鰻料理**
三島の住人は鰻を三嶋大社の神の使いとして古くから保護。暮末に東海道を通行した薩摩の兵が鰻を食して神罰がたらなかったことから食べられるようになったという。「三島うなぎ」は、富士山由来の職人の技により、名物として知られる。
- 20 笹原一里塚**
旧街道の石畳を少し上った南側の高台に1基残る一里塚。現在、塚の上には雑草の木の木があるが、江戸時代の記録では松が植えられたと記されている。
- 21 畑作地帯からの眺望**
旧街道沿いの新田集落の人々は、明治になって旅人の通行量が減ると、箱根山西麓の山肌を開墾。耕作地を背景にして大根干しは三島の初冬の風物詩となっている。
- 22 23 錦田一里塚**
旧街道の両側に往時のまま一対2基残る一里塚は、錦田一里塚を含めて東海道では7ヶ所のみ。塚には現在榎があるが、江戸時代の記録によると、南側は榎、北側は松が植えられていたとされる。
- 17 腰巻地区の石畳**
腰巻地区の石畳の下からは山中城の堀の跡が出土。山中城の石垣出土(だいさきでる)の堀を一部埋め立てて街道を造ったとされる。
- 18 富士見平の眺望**
江戸時代、東海道を通行する旅人に広く知られた富士山の眺望地。多くの旅日記や絵巻などに記録された。付近には、箱根越えの時に詠んだとされる松尾芭蕉の句碑がある。
- 19 笹原地区の石畳**
笹原新田は、東海道の整備にもない開かれた5つの新田集落のひとつ。ここあたりまで峠道をたどると視界が開け、富士山や駿河湾が一望できる。
- 14 山中一里塚**
旧街道の南側に1基残る一里塚。江戸時代の記録では塚の上に樹木はないと記されている。
- 15 願合寺地区の石畳**
江戸時代の西坂の絵図には6ヶ所の石畳が描かれている。願合寺地区に2ヶ所ある石畳のひとつ「一本杉の石畳」が往時のまま姿で保存されている。
- 16 山中城跡**
永禄年間(1560年代)小田原防衛のために、北条氏により造られた山城。天正18年(1590年)、豊臣秀吉の小田原攻めにより落城。北条流築城術の粋を集めた「障子堀」や「飲堀」が今も残る。富士山や駿河湾を望む景勝地でもある。
- 10 11 箱根旧街道の杉並木**
戸ノ瀬畔に今なお残る杉並木は東海道唯一で、約400本の杉の巨木が街道の両側に並んでいる。街道の並木は道標を特定し、旅人を夏の陽射しや冬の風雪から守るために慶長9年(1604)には植えられた。当初は松が植えられたが、その後杉に植え替えられたものと考えられている。
- 12 箱根関跡**
江戸時代、旅人の往来を監視するために箱根に置かれた関所。徳川幕府は、狭い箱根山を江戸の防衛のために重視。関所は小田原藩により管理運営され、特に「由女」に対しては、厳重に取り調べが行われた。江戸川開きの川江文庫から発見された史料をもとに復元公開されている。
- 13 甲石坂**
坂道の途中に、かつて豊田秀吉ゆかりとされる兜石があったことから甲石坂と呼ばれていた。箱根竹におおわれた坂道は往時の風情を伝えていく。
- 7 西海子坂**
江戸側からは登り2町余りの坂道。踏み間違えると千尋の谷に落ちるといわれた急坂。
- 8 甘酒茶屋**
江戸時代から続く街道沿いの茶店。かつて付近には峠越えの旅人のための掛茶屋が複数あった。囲炉裏のきられた茅葺の茶屋では、名物の甘酒や力餅が味わえる。
- 9 芦ノ湖と箱根神社**
富士山を背景に箱根の山々に囲まれて豊かな水をたたえる芦ノ湖は、江戸の旅人たちが憧れた景勝地。ほとりには箱根神社は、奈良時代以降源頼朝や徳川家康など武家の崇敬を集めた。
- 4 畑宿の集落**
江戸時代に宿場間に置かれた間の村のひとつ。箱根越えの旅人のための茶屋があった。畑宿若荷屋(みょうがや)で休息した大名やオランダ商館長一行が「江戸参府行」などの記録に残っている。
- 5 寄木細工**
江戸時代後期に畑宿の石川仁兵衛によって寄木細工の技術が確立されたといわれている。様々な種類の木を組み合わせて模様を作る寄木の木工品は、箱根越えの旅人の土産物として広く知られた。
- 6 畑宿一里塚**
江戸日本橋から23里目にあたる一里塚。直径約9メートルの円形に石積を築き土を積み上げて土を盛って復元。塚の上には標識樹となる樺と楓が植えられた。畑宿町には、湯本茶屋、畑宿、箱根の3ヶ所に一里塚があった。



1:28,000
0 250 500m

【この地図の作成にあたっては、国土院の地形図を有して、同院発行の50万1地方図、2万5千1地形図及び電子地形図25000を使用した。(図記番号 平 2999、図 444-874)】
【この地図の作成にあたっては、国土院の地形図を有して、同院発行の50mメッシュ(標高)を使用した。】
【複製番号 平 2999、図 444-874】
©2019 ZENRIN CO., LTD.